「自主自律の学び」を研究・支援する

TOKYO KASEI UNIVERSITY

東京家政大学 学修・教育開発センター

クレッド通信
2017.3

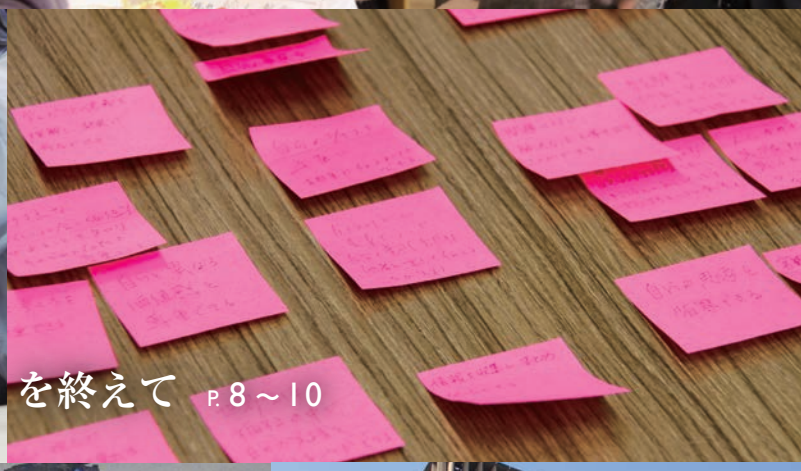
CRED通信 06

Center for Research and Educational Development

アクティブラーニングを効果的に配置したカリキュラム設計 P.4～5

学生と教職員の交流会
家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために P.2～3

教職員研究会
「前進 ～自主自律の精神を未来へ～」を終えて P.8～10



心理カウンセリング学科のFD
進路について自ら考え行動する力をつけるために P.6～7

お知らせ
活動記録2016.04－2017.03 P.11～12

第３回

学生と教職員の交流会

2016年12月20日(火) 18:15〜20:00 / Cafe Luce(カフェ ルーチェ)(16号館食堂) / 参加者　学生24名、教員17名、職員10名

今回学生企画者として携わらせていただきました、教育福祉学科3年齊藤ひかりです。「第２回学生と教職員の交流会」に参加したことがきっかけでこの交流会を知り、今回企画者として参加させていただくことになりました。日頃行われている「学生と教職員の交流」と言いますと、サークル活動や学科内に限られてしまいがちです。私自身、自宅が遠いため大学のサークルに所属することが難しく、他学科の先生方や学生と交流できる機会がなかなかありませんでした。また同じ学科内でも、学年を超えた繋がりが持ちづらい現状にあります。「せっかく多種多様な学科があるのだから、もっとたくさんの先生方や学生と交流する場をつくりたい…！」このような思いから、２年生３名、３年生２名、合計５名の学生が企画委員として携わることになりました。

第１回、第２回の交流会は、CRED の教職員のみなさまが企画から運営まですべて担ってくださっていました。そして第３回目となる今回、私たち学生が企画者として加わりました。学生にとって大学行事の企画に携わること自体が初めてで、不安な点もありました。しかし、CRED 教職員と学生が一体となって企画会議を重ねる中で、「こんな交流会にしたい！」という希望や期待が芽生えていきました。不明点がある時も、CRED 職員の方が相談に乗ってくださり、丁寧にアドバイスをくださいました。このように、教職員の方々とコミュニケーションを取りながら進められたことで、私たち学生の力となりました。また、週に１回学生企画者だけで集まり、企画会議に向けた意見交換も行っていました。学生だけの話し合いを取り入れることで、学生企画者同士の絆を深めることができたのではないかと感じています。このような過程を経て、決定した交流会のテーマは「家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために」です。学生生活をより充実したものにするために、学生自身が主体的になって意見を出し合うことを目的としています。交流会の参加者を募るにあたりましては、ポータルで全学科の学生に連絡させていただきました。また、ポスターを作成して学内に掲示し、呼びかけました。その結果、学生24名、教職員の方々 27名合計51名が今回の交流会に参加してくださいました。

交流会の司会や趣旨説明、タイムキーパー、ファシリテーターは、学生企画者の中で分担を決め進行していきました。まず会の初めにアイスブレイクとして学生同士で自己紹介をし、次に先生方にグループへ加わっていただき、４つの中テーマについて意見交換を行いました。その中テーマとは、１．週間スケジュールの共有　２．図書館の利用方法について　３．授業外学修時間　４．学生の主張、でした。私のグループでは、このうち１，２，３の３つの中テーマを関連付けて進行していきました。週間スケジュール

の共有では、授業・授業外学修・アルバイト・サークル活動などをどのように両立させているのか、授業外学修時間をどのように確保しているのか等を共有しました。その中で、勉強をするにあたって工夫している点や自分が一番勉強に集中できる場所等をポストイットに記入していき、お互いに意見交換や感想を伝え合いました。会の初めは張り詰めた雰囲気でしたが、アイスブレイク等を通して次第に打ち解け、あっという間に時間がきてしまったように感じています。

今回の交流会を終えてみて一番印象に残っていることは、「もっとお話したい！」という声を多く聞けたことです。交流会終了後も、さらに掘り下げた内容を話し合っている様子が伺えました。また、教員、職員のみなさまのご意見を直接お聞きできたことで、話し合いもより深い内容へと繋がっていったのではないかと感じています。他の学生企画者からも、「他学科の学生や先生方と交流することができたことで、視野を広げることができた」「話し合いの際、積極的に意見が出され、ポストイットも活用できた」「事前打ち合わせをしっかりできたおかげで当日の運営をスムーズにできた」などの感想が寄せられています。

今回の交流会は、学生が加わってスタートした原点になります。これから第４回、第５回と開催していきたいと考えています。学生企画者は今回５名でしたが、今後より多くの学生のみなさんと一緒に活動していきたいです。これからもっと学生のみなさんに企画に関わっていただき、今回のテーマ「家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために」を引き継ぎながら、より多くの意見を取り入れていきたいと考えています。最後にこの交流会を開催するにあたり、お食事を作ってくださいましたルーチェのみなさま、このような企画を学生に持ち掛けてくださり、私たちを導いてくださったCREDの教職員のみなさま、本当にありがとうございました。

齊藤 ひかり（さいとう ひかり）
教育福祉学科３年

家政大を、自分たちの学生生活をよりよくするために

この交流会をきっかけに「私たち学生にできることはないか、何か行動に移したい」と考え活動をはじめました。ぜひ、私たちと一緒にさまざまな企画を考えてみませんか？

お問い合わせは
cred@tokyo-kasei.ac.jp
まで！

アクティブラーニングを効果的に配置したカリキュラム設計

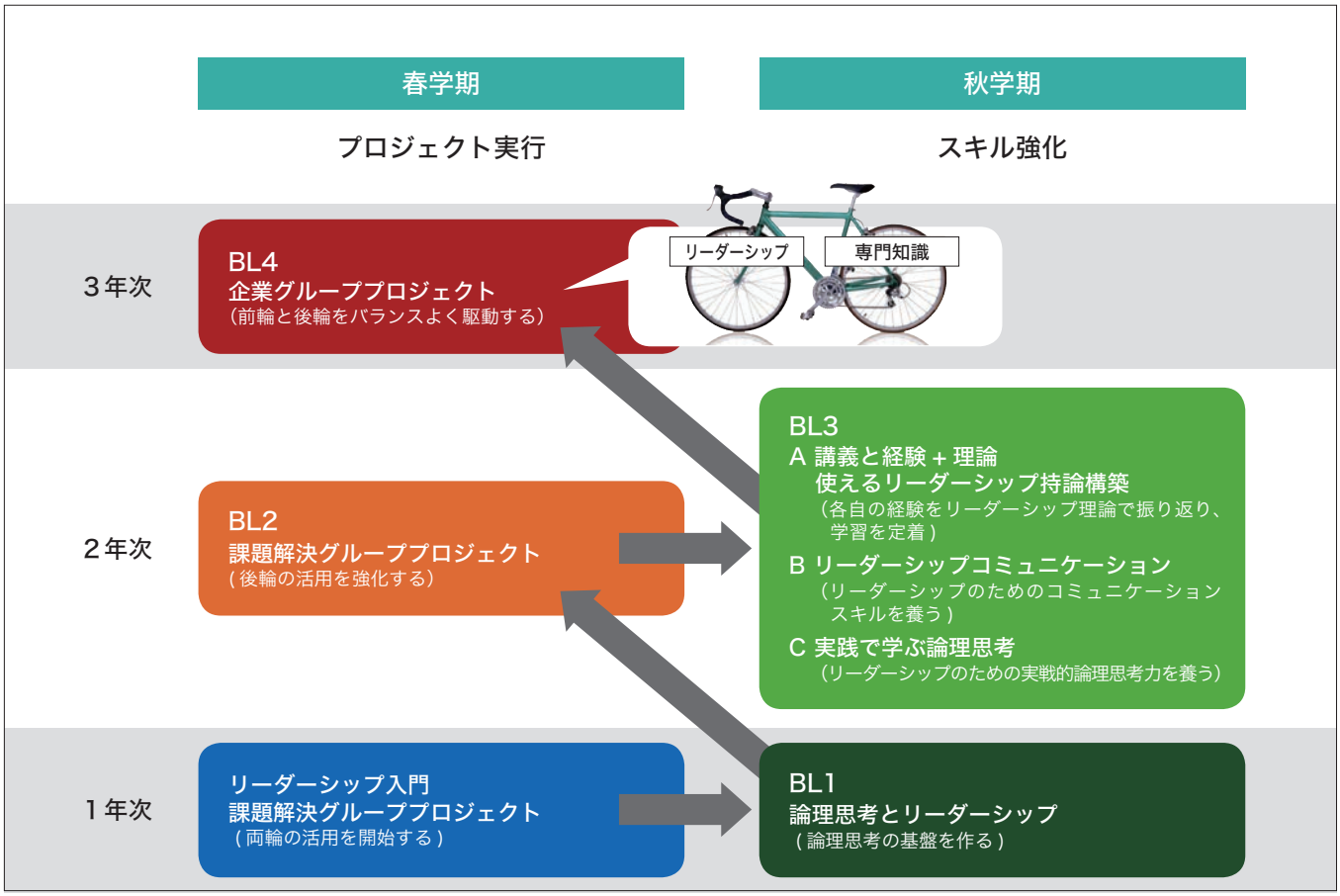
レクチャーノート

2016年9月8日に「アクティブラーニングを効果的に配置したカリキュラム設計」という講座を実施しました。講座は筆者（舘野泰一）に加え、Student Assistant（以下SA）として授業に関わる立教大学経営学部２年の近藤祐一、柴佑里菜、磯野真那の３名とともに実施しました。

本稿では、講座でお話しした（１）Business Leadership Program（以下BLP）とは何か、（２）カリキュラム設計の重要性とは、（３）演習型の授業を効果的に設計するためには、（４）アクティブラーニング型授業を実施する組織体制とは、という４点について概要を報告いたします。

最初にBLPの概要を説明します。BLPとは立教大学経営学部が誕生した2006年から実施しているプログラムです（図１）。「権限がなくても発揮できるリーダーシップの涵養」を学習目標としています。授業は大きく「産学連携のプロジェクト型授業」（春学期）と、「スキル強化型」（秋学期）に分かれています。最初に実践を体験し、その上でスキルを強化するというサイクルがまわるように全体が設計されています。１年生の春学期に実施する「リーダーシップ入門（BL0）」は、経営学部の１年生約４００名が１８クラスに分かれ、課題解決のプロジェクトを行います。秋学期のBL1では論理思考について学ぶことで、リーダーシップ、そして考える力を養成していきます。BLPは文部科学省の質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）で「特に優れており波及効果が見込まれる取組」に認定され、教育再生実行会議の第7次提言では大学のアクティブラーニングの先行事例としてただ1つ紹介されるなど、近年高い評価を得ています。

次に、BLPの事例をもとにカリキュラム設計の重要性について説明します。大学教育の改善をするためには、「単一の授業のデザイン」だけにとどまらず、「授業と授業の関係」をデザインすることが重要です。単一の授業だけでは、短期的に学生の成長を支援することはできますが、限界があります。もちろん１つ１つの授業の質を上げることは重要ですが、「科目間の連携」という意識を持つことでより効果が期待できます。例えば、BLPでは「BL0ではここまでやるので、BL1ではこういう内容を取り扱えませんか？」というように、授業担当者間でコミュニケーションを取りながら、相互に授業を設計します。このような設計を行うと、学生も複数の授業を関連づ



（図１）

けさせながら、長期的に自分自身を成長させることができます。学生の体験談（近藤祐一）の中でも、「BL0での失敗をもとに、BL1でスキルを磨き、BL2で新たな挑戦ができた」といった話がありました。

続いて演習型授業の授業設計について説明します。演習型の授業を設計するポイントは大きく「体験（何かを作る・やってみる）」と「意味づけ（フィードバック・振り返りなど）」に分けることができます。演習型というと、どうしても「体験」の方に目がいきがちですが、学びを深めるためには「意味づけ」のデザインが重要になります。「体験だけさせて、振り返りをさせない」というのは、「はいまわる経験主義」（体験はするけど学びはない）に陥ります。そうならないためには、相互フィードバックや振り返りの時間を設けることが重要です。学生の体験談（柴佑里菜）の中でも、相互フィードバックによって自分の長所と短所に気がつき、新たな目標を立てやすかったという話が紹介されていました。「体験」だけでなく「意味づけ」の時間を授業内で確保することが大切になります。

最後に組織体制について話をします。アクティブラーニング型授業を効果的に実施して、学生の成長を４年間支援するためには、授業運営チームの組織作りが欠かせません。授業間の連携をするためには教員同士のコミュニケーションが必須です。また、演習型授業で学生１人１人を支援したり、学生の視点を取り入れた授業改善を行ったりするためにはSAの力が必要です。学生の体験談（磯野真那）にもありましたが、「学生の視点」は授業をよりよい方向に導き、さらに学生が授業に消費者的ではなく、生産者として関わるきっかけになります。

以上４点について述べてきました。私たちは学生にProject-Based Learning（PBL）等を体験させますが、実は私たちが「教職員・学生が協力して、学生の学びが最大化するための授業を設計せよ」というPBLを体験しているともいえるのではないでしょうか。よりよい授業を作るためには、まず自分たち自身がアクティブラーナーとなり、他者と共同しながら成果を出すことを楽しむことが第一歩ではないかと思います。

舘野 泰一（たての よしかず）

1983年生まれ。立教大学経営学部助教。青山学院大学文学部教育学科卒業。東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学後、東京大学大学総合教育研究センター特任研究員を経て、現職。博士（学際情報学）。大学と企業を架橋した人材の育成に関する研究をしている。具体的な研究として、リーダーシップ開発、越境学習、ワークショップ、トランジション調査などを行っている。近著に『アクティブトランジション 働くためのウォーミングアップ』（三省堂）がある。

進路について自ら考え行動する力をつけるために

～心理カウンセリング学科を卒業した先輩と語る会～

心理カウンセリング学科　中込 由美・平川 俊功

去る平成28年11月4日(土)、心理カウンセリング学科を卒業し社会で活躍している卒業生９名を招いた懇談会に、同学科の在学生111名が参加した（１年生30名、２年生31名、３年生45名、４年生５名）。講演会は、在学生の授業を考慮して午後3時から5時に開催し、前半は卒業生一人一人から「大学４年間をどうすごしたか」「いつ頃、どのように進路を決めたのか」「今、どのような仕事をしているのか」「後輩へのメッセージ」を語ってもらい、後半は、卒業生の職業のジャンルに分けた各ブースで在学生が直接先輩と話す時間とした。先輩たちの話を聞く在学生の顔は真剣そのもの、瞳が輝いていた。職業別の各ブースでは、学年入り混じった在校生が卒業生を囲んで次から次へと質問し、卒業生はその質問に一つ一つ丁寧に回答してくれた。「明日、最終面接なんです・・・」と不安でたまらない4年生にも具体的なアドバイスと力いっぱいの応援の言葉をかけていた。同学科の先輩の言葉だからこそ在学生の心に届く力強いエールである。会が終わると、卒業生たちがつぶやいた。「自分が学生のとき、こんな話を聞きたかった」「あの頃の自分に言ってあげたい。心配しないで頑張って。こんな私になってきちんと生きているよって。」

そして、この事業の盛会を支えてくれたのは準備と運営、まとめの全てを進めてくれた３年生（有志）である。会終了後のアンケートでは、参加した１年生の96.4%、２年生の96.8%、３年生の94.5%、４年生の100%が「進路を考える上でとても参考になった・参考になった」と回答している。

はじまりは教員採用試験対策

この事業は、５年前、心理カウンセリング学科で養護教諭一種免許を取得して教員採用試験に臨む学生のために「学科強化費（現：学科教育強化費）」を申請し、種々の事業の１つとして企画したことがはじまりである。当時は「採用試験勉強はいつから、どのくらい、どんなふうに」といった内容が主であったし、本学で養護教諭の免許を取得した先輩がいないという状況であったため、他大学卒業の新卒養護教諭を講師としてお願いしていた。そして一期生を養護教諭として輩出してからは、同学科の先輩が後輩のために語る場として、今回の事業に至っている。学科教育強化費による種々の事業は教員採用試験対策に限らず、専門知識や教科指導法等、授業では学びきれない内容を計画している。その企画や準備、運営を学生と担当教員が相談しながら進め、授業外学修の場にもしてきた。

授業外学修の場としての活動

今回の事業では、卒業生への連絡や依頼は教員が行い、在校生の参加申込や先輩への質問の整理、会場設営などの準備と当日の接待や会の進行などの運営を、担当した４人の３年生が丁寧に進めてくれた。１ヶ月以上も前から担当教員と相談しながら資料を整えたりタイムスケジュールを検討したり、受付や注意事項なども自分たちで考えて会場設営、講師への礼状作成等を行った。こうした活動は、本学科の学生によって組織されている「養護教諭研究会」が教員採用試験対策などを進める際も同様にしている。養護教諭が職務を遂行する学校現場では同僚や他職種と協働する場面が多く、養護教諭はコーディネーター的役割が求められている。プレゼンテーションの力や指導力も必要とされている。そうした教科書には載っていない力量形成をも意図している。この活動で身に着けたことが学校医等への対応場面等でいかされ、職務を円滑に進めることに役立っているという卒業生からの報告もある。

多様な進路を選ぶことのできる本学科の学生の声をひろって

心理カウンセリング学科に入学してくる学生は、「心理学・カウンセリング学を勉強したい・興味がある」「人が好き」という部分で共通しており、入学時は「養護教諭になりたい・なれたらいいな」と思っている学生は多い。学科の名称から卒後の進路は心理に関係する職に就くように思われがちだが、大学院進学（臨床心理士等）、企業や銀行、公務員、児童指導員、児童養護施設職員そして養護教諭等々、本学科の卒後の進路は多様である。学生たちが入学後、心理学・カウンセリング学や養護教諭の免許取得のための学びを進めていく中で、自分は何をしたいのかを改めて考えた結果であるといえよう。養護教諭を目指す学生の指導をしている中で、「自分は本当に養護教諭になりたいだろうか」「この学科での学びをいかすとはどういうことなのか」という思いに直面した時に、“誰に相談すればよいか、どう動き始めたらよいかわからずに不安だけを抱え続けている”という学生の実態に気付いた。そして、「同じ学科で学び社会人になった先輩の話を聞きたい」という在学生達の声をいかして、昨年度から養護教諭だけでなく種々の職業に就いた卒業生を招く企画に拡大してきたものである。今回は、一般企業、金融関係、NPO 法人、私立・公立学校の養護教諭という仕事に就いている先輩９名にお越しいただいた。この企画は、教職と就職担当教員が中心となり、学生支援センターキャリア支援課の大きな力添えがあって実現したものだ。

本学科の研究課題やカリキュラム・マネジメントとのリンク

本学科では平成27・28年度継続して「進路レジリエンスの育成を目指した研究」に取り組んでいる（教育改革推進経費による）。本事業はこの研究とも情報を共有するなどのリンクを図って進めている。また、本学科では現在、教育の質保証のための新しいカリキュラム編成の検討を進めており、各科目や事業の内容を相互の関係で捉える横断的な視点からの教育活動を考えている。本稿で紹介した事業はその取り組みの一つの具現化ともいえよう。

中込 由美（なかごめ ゆみ）
本学心理カウンセリング学科准教授（臨床看護研究室）
国立相模原病院看護師、国立病院機構相模原病院附属看護学校看護教員、目白大学看護学部看護学科准教授を経て2009年4月本学着任 / 研究分野：臨床看護学 / 著書：『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護』東山書房（共著）、『グループ・アプローチで学級の人間関係がもっとよくなる指導案＆ふりかえりシートですぐに実践』学事出版株式会社（共著）。

平川 俊功（ひらかわ としこう）
本学心理カウンセリング学科准教授（養護教諭研究室），博士（教育学），修士（学術）。
公立小・中学校・特別支援学校の養護教諭、県立総合教育センター指導主事を経て、2010年4月より本学着任 /「養護概論」「健康相談活動論」「養護実習Ⅰ・Ⅱ」などの授業を担当。主な著書 /『養護教諭の資質能力の向上』学事出版（単著），『改訂　保健室経営マニュアル　その基本と実際』ぎょうせい（共著）ほか。

教職員研究会
「前進　～自主自律の精神を未来へ～」を終えて

平成28年9月2日（金）9：50～17：45

はじめに：企画にあたって

教職員研究会は、今年度より、企画運営を学修・教育開発センターが担当することになりました。教職員研究会は、原則として本学の全教職員が参加し、丸1日を大学が取り組むべき課題を全学で共有できる、また日頃関わる機会の少ない他の学部学科の教員、事務組織の職員と交流できる大変貴重な１日です。この１日を有益に使うためのプログラム検討、講師選定、円滑な当日運営等の検討を５月頃から開始しました。

プログラム構成は第一部：基調講演、第二部：教員と職員分かれてのワークショップ、第三部：教職員カフェによる交流、という昨年度のものが有効と考え、今年度も同様としながらも、中身はさらなる充実をはかるべく検討に多くの時間を費やしました。基調講演においては、大学における近年の教育改革の主要テーマである「教育の質的転換」について、先進的に取り組み成果を出している玉川大学の事例を紹介する上で、本学の今後の取り組みに活かしやすいよう、玉川大学の取り組み全体から具体的事例をいくつかに絞り、参加者に伝わりやすい講演内容となるよう検討を行いました。次に、第二部のワークショップの内容において、今回特に意識したのは、教職員研究会で得た気づき、問題意識が1日限りで終わらず、後々も個人として、組織として継続的に取り組めるようなものにしたい、ということでした。第二部（教員）に関して「本学はどのような学生を育成したいか」、「そのためにどのようなポリシーを定めるべきか」といった本質的なテーマについて外部講師を招かない自前形式で運営するにあたり、各学部長、学修・教育開発センターの教職員で検討を重ねました。第二部（職員）に関しては、前半は外部講師による講演で気づきを得た後、後半のワークショップにて今後の事務組織としてあるべき姿を考え、意見交換を行い、継続的な取り組みにつなげることを意識しました。人事課と協働のもと、講師の先生を訪問し、会の主旨を理解して頂いた上での研修となるようお願いし、検討を重ねました。また、「継続的な取り組み」の一環として、本研究会で検討した課題は研究会終了後も各部署で解決に取り組み、その結果をリサーチウィークス内で発表することといたしました。

第三部（カフェ）は懇親を目的としながらも、大学の方向性をざっくばらんに話し合えるプログラム構成としました。

第１部　基調講演

玉川大学教学部長
稲葉興己先生

大学教育の質的転換に向けて
～玉川大学の取り組み～

玉川大学は2011年　に「Tamagawa Vision 2020」を策定し、大学教育の質保証に向けて大学全体を挙げて教育改革に取り組まれています。基調講演では、改革を推進してこられた教学部長の稲葉先生に、「これまでの教学改革の実績」「現在進行中の取組」についてご講演いただきました。

講演内容は、「単位の実質化（CAP制の導入）」、「GPAの活用」、「シラバスの運用改善」、「学生ポートフォリオの導入と学修成果の可視化」、「授業外学修時間の確保のための時間割工夫」、「カリキュラムマップ作成、ナンバリング」、「アクティブ・ラーニングの推進」「教学支援体制の強化」等、いずれも実施するには障壁が高いと感じられることに対し、全学的な取り

組みとして着実に成果を挙げて来られている様子が伺えました。具体的事例に基づく説明、特にIRを活用した定量的な報告は説得力のあるものでした。真摯に聞き入りメモをとる様子、本学の実状と照らし合わせた具体的な質疑が出たことが印象的でした。

第2部　教員

学部が目指す人材育成を考える

※この項は、家政学部児童学科講師／学修・教育開発センター専門委員の佐藤隆弘先生にご執筆頂きました。

第二部（教員）では、「東京家政大学の4学部及び短期大学部は、どのような人材育成を目標とするのか」と題し、各学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の改訂に向けた検討会が行われました。ご参加の先生方には、グループに分かれて、「学部が目標とする人材像」、「学部の学修成果」、そして「学生に提供できる（すべき）こと」に関して議論していただきました。そしてここでの検討内容は、各学部の学部長が学部のポリシーを改訂する際の資料とする、というのがこの会の趣旨でした。

検討会に先立ち、先生方には「検討シート」をメールでお配りしてこれらの事項についてあらかじめ考えていただきました。そして当日は、この検討シートの内容に基づいて話し合いが行われました。まずは、2,3人の組になって意見交換する「ペアワーク」を実施し、その後にグループごとに意見をまとめ、その後に、各グループの検討内容の発表と意見交換の時間を設けました。

私は家政学部と短期大学部の司会を担当しましたが、活発な意見交換が行われたと感じました。時間の都合上、当初予定していた3つの項目の全てを検討することはできなかったのですが、逆に、それだけ充実した話し合いが行われたと考えています。私自身にとっても、学部や学科、大学の3ポリシーについて改めて考える良い機会であったと感じています。

第2部　職員

新島学園短期大学学長／岩田雅明オフィス 代表
岩田雅明先生

～社会で必要とされる大学、必要とされ続ける大学であるために職員がなすべきこと～

講師の岩田雅明先生は、職員時代に定員割れだった大学を改革し経営改善された大学経営コンサルタントです。研修では、マー

ケティングの世界でよく使われるフレームワーク（枠組み）の２つを使用し、大学（または自部門）の課題を明らかにするワークショップが行われました。1つ目は「3C 分析」、2つ目は「SWOT 分析」です。

＜3C分析＞

- Customer　大学（自部門）の顧客は誰か／顧客のニーズ、不満・不安は何か。
- Competitor　競合校を認識しているか。
- Company 自学（自部門）の現状を認識しているか。

＜ SWOT分析＞

自学（自部門）の Strengths（強み）／ Weaknesses（弱　み）／ Opportunities（機会）／ Threats（脅威）を、それぞれどのように認識しているか。

２つの分析により、目指すべき自学（自部門）の方向性と現状との GAP、つまり課題が見え、課題を解消するための行動（何をなすべきか）が明らかになる。岩田先生の講演内容は、平易な表現で参加者と同じ目線に立ったもので、大変親しみやすいものでした。

岩田先生の講演後、後半はグループ別ワークと発表となりました。岩田先生による講演とワークショップ、事前に課された宿題をもとに、グループ内のメンバが、自部門の課題をグループ内で共有し、意見交換の後、グループで1人ずつ発表を行いました。今回、グループのメンバ構成は、日常業務において交流の少ない部門、あるいは職位・年齢層の異なる職員も含むよう考慮しました。各部門が抱える課題に対し視点の異なる意見が出たグループもあり、予定時間を少し超えて終了するなど、活気ある研修となりました。

第3部　カフェ

教職員カフェ＆懇親会

第二部で、教員・職員ともに3時間に及ぶワークショップを終え、第三部会場（多目的ホール）へ移動する参加者の様子には、疲労感が漂っていました。

受付を済ませ、会場に入り、テーブル上に置いてあるのは、お菓子に加え、「用紙、付箋、筆記用具」のグループワークセット（！？）でした。「懇親会なのに、まだ考えて書く作業がある…」「カフェだからゆっくりとコーヒーを飲みたい…」「授業時間帯に例えると、朝から講義を受けて、これから５限目の時間帯。学生は大変…。」と、心の声が思わず漏れ出るように話をされている姿を見ると、第三部は成り立つのだろうかと、若干不安になりました。グループワークのテーマは、「学生に向けて社会に向けて、東京家政大学はどんな教育目標を掲げるのか？卒業生に、どんな学修成果を約束するのか？」という本学にとっての存在意義に通じるようなテーマではありましたが、いざ始まってみるとリラックスした雰囲気でありながら、テーマに対しまじめに意見交換している様子が見られました。

全体を通じて＆次回に向けて

全体を通じて参加者は280名でした。事後のアンケートでは、大多数の教職員の方々より「有意義であった」「満足できる内容であった」という声を頂き、会の目的は達成できたと感じております。

一方で「第二部のワークショップはもっと効果的なやり方、時間配分があるはず」「事前課題と当日の研修内容とのつながりが不明」等の厳しいご意見もあり、次年度は研修の設計レベルをさらに向上させる必要があると強く感じています。

冒頭で触れましたが、今回の教職員研究会では、各自が得た気づき・問題意識といったものを1日限りではなく、日常における継続的な活動につながっていくことを意識しました。今年度後期において各学部・学科、事務部門による継続的活動の成果は、2月～3月のリサーチウィークスで発表される予定です。

まだまだ手さぐりのところもありますが、学修・教育開発センターとして試行錯誤を重ねながらも次年度以降の取組に活かしていきたいです。最後になりましたが、企画、運営にあたってご協力いただきました各方面のみなさま、ご参加頂きました教職員のみなさま、どうもありがとうございました。

Report

安積 和広
（あづみ かずひろ）

学修・教育開発センター

活動記録 2016.04－2017.03

学修・教育開発委員会

2016年4月28日	第1回委員会（東京家政大学のFD等）
2016年6月2日	第2回委員会（東京家政大学のFD等）
2016年7月7日	第3回委員会（東京家政大学のFD等）
2016年9月8日	第4回委員会（教職員研究会等）
2016年10月6日	第5回委員会（自校教育科目開設準備員会の設置等）
2016年11月10日	第6回委員会（東京家政大学におけるアクティブラーニング等）
2016年12月1日	第7回委員会（東京家政大学におけるアクティブラーニング等）
2017年2月2日	第8回委員会（平成29年度授業アンケート等）
2017年3月2日	第9回委員会（東京家政大学のFD等）

学修・教育開発センター会議

2016年4月21日	第1回センター会議（東京家政大学のFD等）
2016年5月19日	第2回センター会議（東京家政大学のFD等）
2016年6月16日	第3回センター会議（東京家政大学のFD等）
2016年7月21日	第4回センター会議（教職員研究会等）
2016年9月15日	第5回センター会議（教学IRデータレポート等）
2016年10月20日	第6回センター会議（東京家政大学におけるアクティブラーニング等）
2016年11月24日	第7回センター会議（東京家政大学におけるアクティブラーニング等）
2016年12月15日	第8回センター会議（平成29年度授業アンケート等）
2017年1月26日	第9回センター会議（ポリシー共有・検討会等）
2017年2月13日	第10回センター会議（平成29年度授業アンケート等）
2017年3月23日	第11回センター会議（平成29年度CRED活動計画等）

行事

2016年4月4日	スタートアップ・エクササイズ2016年版（配付）
2016年5月21日	アクティブラーニング講座「アクティブラーニングを取り入れた授業デザイン」（共催）
2016年6月9日	e-kasei講習会（企画・実施）
2016年6月20～7月9日	前期授業公開（企画）
2016年6月30日	e-kasei講習会（企画・実施）
2016年7月1日～21日	前期授業アンケート（実施）
2016年7月7日	e-kasei講習会　※狭山キャンパス（企画・実施）
2016年7月14日	「大学教育の再構築-学生を成長させる大学へ」講演会（企画・運営）　※狭山キャンパス中継
2016年7月28日	東京大学FFPミニレクチャイベント※狭山キャンパス中継（企画・運営）
2016年9月2日	平成28年度教職員研究会（企画・運営）
2016年9月8日	「アクティブラーニングを効果的に配置したカリキュラム設計」講演会（企画・運営）
2016年10月27日	CRED通信05（発行）
2016年11月8日	e-kasei授業見学会（企画・実施）
2016年11月11日	e-kasei授業見学会（企画・実施）
2016年11月9日	前期授業アンケート集計結果（公開）
2016年11月2日～15日	大学IRコンソーシアム「学生調査」（実施）
2016年11月28日～12月17日	後期授業公開（企画）
2016年12月5日～2017年1月12日	後期授業アンケート（実施）
2016年12月8日	e-kasei講習会（企画・実施）
2016年12月15日	e-kasei講習会（企画・実施）
2016年12月20日	学生と教職員の交流会（企画・運営）
2017年2月1日	立教大学BLPワークショップ（企画・運営）
2017年2月1日～3月31日	リサーチウィークス（実施）
2017年2月20日	リサーチウィークスオープニングレクチャー（企画・運営）
2017年2月21日	平成28年度 教育改革推進（学長裁量）経費予算による研究・開発の成果発表会（企画・運営）
2017年2月22日	リサーチウィークスFDフォーラム（企画・運営）
2017年2月24日	東京家政大学における「第3回障害平等研修」（後援）
2017年3月1日	部署別課題対応発表会1日目（共催）
2017年3月3日	部署別課題対応発表会2日目（共催）
2017年3月29日	ポリシー共有・検討会（企画・運営）

出張歴

2016年4月22日	2016年度大学評価実務説明会　@東洋大学白山キャンパス　井上円了ホール：井上俊哉、宮東城
2016年5月10日	東京都私立短期大学協会春季フォーラム　@アルカディア市ヶ谷「私学会館」：宮東城
2016年5月29日	教育ITソリューションEXP　@東京ビッグサイト：矢野穂

【CRED NEWS　ー クレッド ニュースー 】

2016年5月30日	私立大学等経常費補助金説明会（入門者向け）　@文京学院大学　本郷キャンパス：安積和広
2016年6月3日	私立大学等経常費補助金説明会（責任者向け）　@文京学院大学　本郷キャンパス：宮東城
2016年6月10日～11日	大学教育学会第38回大会　@立命館大学　大阪いばらきキャンパス：井上俊哉、安積和広
2016年6月17日	明星大学「自立と体験Ⅰ」授業公開　@明星大学　日野校：矢野穂
2016年6月20日	大学IRコンソーシアム総会　@甲南大学　岡本キャンパス：宮東城
2016年6月21日	立教大学BLP見学　@立教大学　池袋キャンパス：矢野穂
2016年7月8日	manabaセミナー　@シェラトン都ホテル：安積和広、矢野穂
2016年7月9日	第11回メディア教育シンポジウム「eポートフォリオの活用と教育の質保証」 @神奈川大学　横浜キャンパス：安積和広
2016年7月25日	お茶の水女子大学FD/SD研修「アクティブ・ラーニングの現場で生きる人的支援と空間 ～日本、フランス、世界の動向から今後のあり方を考える～」　@お茶の水女子大学：井上俊哉
2016年8月3日	大学教育改革特別セミナー　@東京工業大学　大岡山キャンパス：井上俊哉
2016年8月9日	インストラクショナルデザインへの誘い　@東北大学　川内北キャンパス：井上俊哉
2016年8月27日～28日	高等教育質保証学会　@東洋大学　白山キャンパス：井上俊哉
2016年7月8日	千葉大学アカデミック・リンク・セミナー／ＡＬＰＳセミナー「学生相談から見た学修支援-窓口として/ 目的として－」　@千葉大学　西千葉キャンパス：井上俊哉
2016年9月13日	「次世代教育セミナー　～反転授業における映像活用の未来」セミナー　@東京コンファレンスセンター品川：安積和広
2016年9月14日	大学IRコンソーシアムワークショップ　@甲南大学　岡本キャンパス：宮東城
2016年10月7日	明星大学（自校教育科目設立準備のため）　@明星大学　日野校：井上俊哉、矢野穂
2016年10月14日	大学規準協会　総会・大学評価シンポジウム　@アルカディア市ヶ谷：井上俊哉、宮東城
2016年10月20日	第2回GAKUENIR研修会　@日本システム技術株式会社：宮東城
2016年10月19日	「manabaへのリプレイス事例紹介 in名古屋」　@ウインクあいち：安積和広
2016年11月1日	教育革新シンポジウム　@東京工業大学　大岡山キャンパス：矢野穂
2016年11月25日	東京都私立短期大学協会秋季フォーラム　@アルカディア市ヶ谷「私学会館」：宮東城、安積和広
2016年11月26日	「高等教育と大学初年次教育の事例を用いてアクティブ・ラーニングのあり方を考える-コーチングの観点から見た アクティブ・ラーニングのコツ－」　@明星大学　日野校：井上俊哉
2016年11月26日	FD担当者養成プログラム　@帝京大学　八王子キャンパス：矢野穂
2016年11月28日	IR&EDMワークショップ　@宝塚大学　東京新宿キャンパス：宮東城
2016年12月5日	ICTを活用した授業改革セミナー　@東洋大学　白山キャンパス：安積和広
2016年12月6日	まなぶとはたらくをつなぐ シンポジウム2016　@品川インターシティホール：矢野穂
2016年12月8日	第3回GAKUENIR研修会　@日本システム技術株式会社：宮東城
2017年1月19日	大学基準協会スタディー・プログラム　@アルカディア市ヶ谷：井上俊哉
2017年1月20日	「高等教育における戦略的データ活用とリーダーシップ」国際シンポジウム @東京国際交流館メディアホール：井上俊哉
2017年1月28日	外国語教育におけるCLILの実践と応用　@上智大学　四谷キャンパス：並木有希
2017年1月30日	第10回大学プロフェッショナルゼミ「私立大学の初年次教育改革～明星大学の事例より～」 @NPO法人NEWVERY：井上俊哉
2017年3月6日	「大学授業デザインの方法-1コマの授業からシラバスまで－」　@東京工業大学　大岡山キャンパス：井上俊哉
2017年3月9日～10日	第1回大学教育イノベーションフォーラム　@東京国際交流館メディアホール：安積和広
2017年3月13日	「英語で教える：入門編－学生がよく学ぶ授業技法を取り入れる－」　@名古屋大学　東山キャンパス：並木有希

学科・科主体のFD活動

1）英語コミュニケーション学科
多様なニーズに応えるための学生対応スキル向上

2）児童学科・保育科
大学コンソーシアム京都第22回FDフォーラムに3名派遣

新規＆追加購入図書

○「大学のIR 意思決定支援のための情報収集と分析」
小林雅之・山田礼子、慶應義塾大学出版会

○「戦略的大学職員養成ハンドブックー経営参画できる“職員力”ー」
岩田雅明、ぎょうせい

○「大学教育の質的転換に向けた実践ガイドブック」
文部科学省、リベルタス・クレオ

○「アクティブラーニングのデザイン」
永田敬、林一雅、東京大学出版会

○「授業設計マニュアルVer.2：教師のためのインストラクショナルデザイン」
稲垣忠・鈴木克明、北大路書房

○「大学のFD　Q&A」
佐藤浩章・中井俊樹・小島佐恵子・城間祥子・杉谷祐美子、玉川大学出版部

○「大学自らの総合力Ⅱ」
寺崎昌男、東信堂

○「アクティブトランジション」
舘野泰一・中原淳、三省堂

○「ビジュアルビジネス・フレームワーク」
堀公俊、日本経済新聞出版社

○「世界一やさしい問題解決の授業」
渡辺健介、ダイヤモンド社

○「新版[図解]問題解決入門」
佐藤允一、ダイヤモンド社

○「新人コンサルタントが入社時に叩き込まれる『問題解決』基礎講座」
松浦剛志・中村一浩、日本実業出版社

○「戦略思考コンプリートブック」
河瀬誠、日本実業出版社

○「問題発見プロフェッショナル『構想力と分析力』」
齋藤嘉則、ダイヤモンド社

2016年度、CREDは以下のメンバーで活動しました

所長
井上 俊哉（心理カウンセリング学科）

副所長
平山 祐一郎（児童学科）

参事
手嶋尚人（造形表現学科）
新関 隆（環境教育学科）
大西 淳之（栄養学科）

専門委員
佐藤 隆弘（児童学科）
並木 有希（英語コミュニケーション学科）
重村 泰毅（栄養学科）

センター専任職員
宮 東城
安積 和広
矢野 穂

2017年3月発行　編集＆発行：東京家政大学 東京家政大学短期大学部　学修・教育開発センター
構成＆DTP：東京家政大学 ヒューマンライフ支援センター　坂本理恵
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1　TEL：03-3961-0284　E-mail：cred@tokyo-kasei.ac.jp